

## 安全は足元から、 地道な努力の積み重ねで習慣付け

東プレ岐阜株式会社は平成24年7月に16年間の無災害を継続し、安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。この年、労働安全部門の事業所として総理大臣賞を受賞したのは、全国で唯一、東プレ岐阜だけであった。

東プレ岐阜株式会社・岐阜県

### 安全意識は日頃の習慣で身に付ける

東プレ岐阜の第1工場は、操業時に当地にあったタイル工場を買い取った建家で、いまも使われている。創業当初の外観はタイル工場のままであった。安全な作業にとって大切なことは、社員1人ひとりの意識にあるというのが東プレ岐阜の基本的考え方だ。安全意識を高めるには、身だしなみを整えることも大切だ。第1工場も、汚れた箇所、破損した箇所など気が付いたところをその都度改修するなどし、見ただけではそれほど古い建物とは感じさせない。

同社では創業以来、「安全は足元から」をモットーにして、工場内に靴磨きを置いている。仕事中でも、靴が汚れたならば磨き、清潔を習慣付けさせている。安全意識は日頃からの習慣が大事だというわけである。

同社では平成8年に休業災害が起きたことがあり、この事故を契機に、労働安全に対し、それまで以上に力を入れるようになった。平成22年に無災害310万時間を達成し、さらに465万時間を平成27年に達成することを目標として、現在も記録を更新中だ。

### 安全衛生活動の基本は全員参加

東プレ岐阜の安全衛生委員会は、会社側と従業員側から5人ずつの10人で構成されている。安全衛生委員会は毎月1回開催されるが、その前に安全パトロールを実施する。パトロールは安全衛生委員会の代表2人と製造現場から選ばれた5人の計7人によって行う。

平成 20 年度厚生労働大臣賞優良賞受賞(安全優良工場)、  
平成 24 年度内閣総理大臣表彰 賞状と盾



工場内に置かれた靴  
磨き



床から出ているコードなど、わずかなリスク箇所にも改善するまでの間は冊をして注意を喚起

フォークリフトが触れてもコイル材が倒れないような工夫の対策前と対策後



6S の標識

製造現場からの 5 人は毎回交代するため、全社員は 1 年から 1 年半に 1 回は安全パトロールに参加することになる。工場内を巡回し、少しでも危険が予測される箇所などがあれば写真撮影し、パトロール後に問題点を指摘する。すぐには事故につながると思われるようなことであっても、万が一を想定し、徹底的に検証する。

パトロールによって、普段は気にしなかったことでも気付くことがある。安全管理はともすると安全委員だけの活動になりがちな面もあるが、パトロールで全社員が参加することになり、社員自ら問題意識を持つようになる。そのため社員 1 人ひとりの安全に対するスキルアップにもつながっている。

パトロールによってささいなことも含め、毎月 20 件程度の問題が提起される。しかし、小さな問題をきちんと受け止め、議論し、少しでも改善する方向へ持っていくことによって、問題提起をした社員の安全意識が向上する。

また、製品の積み方が不安定であれば、誰が見ても危険を指摘することができるが、実際に作業をしている人でなければ分かりにくい作業中の危険というものもある。そうした声をこまめに拾い上げることができる。細かなことを積み上げていくことで、大きな危険となるかもしれない芽を摘み取っていく。

## 安全速報、リスクアセスメントで社員自ら対策を考える

同社では小さな事故が発生した場合や、事故にはならなかったが、事故につながったかもしれない事例を、「東プレ岐阜安全速報」で社員に知らせ、対策を考える。例えば、並べてあったコイル材にフォークリフトが軽く触れてしまい、コイル材が将棋倒しとなったことがある。もしもその場に人がいたならば、災害につながったかもしれない。安全速報で全員にしらせ、対策を考えてもらった結果、仮にフォークリフトが触れたとしても、製品が倒れたり、転がらないようにする簡単な置き台をつくった。

安全速報は、大きな事故が起きた場合は東プレグループ全体で共有する。他のグループ会社で事故が発生したときは、同じような事故が発生する可能性があるかどうかを検証し、可能性があれば、すぐに改善の手を考える。

また、不安全行為対策書では事故につながりかねない不安全な行為があったときに状況を報告させ、対策を立てる。単に事故の発生状況を報告させるだけではなく、その事故が発生した原因、さらにその原因のそのまた原因といった具合に、「なぜなぜ」と徹底的に追及する。事故を発生させてしまった人に、より深く考えてもらうことで、反省材料にもしてもらおうというわけである。不安全行為対策書は事故を起こした本人だけではなく、その作業に関係する人達皆で考えて記入する。そして工長、係長、課長、次長、部長、安全管理者など何段階ものチェックが入り、「なぜ」と問われるたびに書き直す。最終的には役員が目を通す。

安全衛生委員会とは別に平成19年にリスクアセスメント推進委員会が作られた。これは安全パトロールや安全衛生委員会の取組みを評価する委員会である。毎月1回、各部署から問題となりそうなことを提出してもらい、リスクの程度、危険要因が発生する可能性の頻度、ケガをする可能性などを採点し、リスクレベルを判定する。安全衛生委員会はリスクアセスメントの判定結果を見て、リスクの高いものから徹底的になくす対策を立てる。リスクアセスメントを始めた当初は、年間200件ほどあったが、現在は60件ほどに減少した。

このほかにも、物件対応で納入した機器の補修や点検などに出かけることがある。出張の場合には必ず出張作業危険予知で安全教育を実施している。

## 『習慣』をプラスした6S運動

同社では5Sに『習慣』を加えた6S運動を毎月6の付く日に実施している。5Sを習慣付けようという意味で、朝30分ほどかけて整理、整頓、会社周りも含めて清掃を行う。ゴミ1つ落ちていないようにすることで、納品業者さんに会社の周辺にまで目を行き届かせている会社であることを意識してもらおうという狙いもある。東プレ岐阜にとって安全で一番重要なことは全員参加による日常のさまざまな活動を習慣づけることなのである。

不安全行為対策書

不安全行為対策書		No 製造 23 - 01 作成日 23年 8月 23日						
工場長	安全管理者	部長	次長	課長	係長	工長	リーダー	作成
作業者		生年月日	52年 1月 3日		(34才)	勤続年数	16年	
発生日	23年 8月 12日	発生場所	第一工場板金G仕掛品置き場		機械名	フォークリフト (1t)		
時間	17時 30分頃	共同作業者	なし		職位	リーダー		
<b>1. 不安全行為内容</b>								
・ 網パレット (大) 3段積み をフォークリフトにて運搬。								
・ バックで旋回中に網パレット 3段積み を横転させた。								
・ パレットの中身は住宅大和ハウス向けメインパネルとロアパネルが各 20 セット * 3パレ								
<b>2. 発生原因 (なぜなぜを追求して箇条書きで具体的に記入)</b>								
・ 網パレット 3段積み の上部が天井より吊り下がっているアングルに接触して横転した。								別紙にて写真 と図で説明
・ 網パレット 3段積み をリフトにて高く (約 1.3 m) 上昇させて旋回した。								
・ 手前にあった高さ約 1 m のパレットを避ける為に高く上昇させ旋回した。								
(パレットとパレットの間のスペースに入れる為、その場合パレットの上を通して入れている)								
・ 天井より吊り下がっているアングルがリフト屋根の死角となり気が付かなかった (夕方にて薄暗くなっていた)								
・ さほど重量物でもなく中身もバランスよく収納されていたのでフォークリフトの爪を最大に広げて持ち上げれば横転する事は無いだろうと安易に考えた。								
<b>3. 対策 (具体的な対策、ハード面での対策を必ず記載のこと)</b>								
・ 3段積みパレットは 30cm 以上は上昇させない。						期日	8 / 23 ~	
・ 狭い通路ではハンドリフターを使用してフォークリフトで無理な旋回はしない。						期日	8 / 23 ~	
・ 天井より吊り下がっているアングルには目立つ物を吊るし、撤去が可能であれば撤去してもらう。						期日	8 月末	
<b>4. 職制 (上司) のコメント</b>								
・ 社内には天井より色々な物が吊り下がっています。危険・不用品を撤去するように進めます								
・ リフトにて移動させる場合、周りに障害物がないか確認し、あれば事前に移動させて作業にかかる事								
・ 不安定・危険と感じる事を絶対やらない→今回を事例に KYT を実施								